

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
鹿児島医療技術専門学校		平成5年3月10日		原田 敏彦		(平川キャンパス)〒891-0133 鹿児島市平川町宇都口5417-1 (谷山キャンパス)〒891-0113 鹿児島市東谷山3-31-27 (電話)(平川キャンパス)099-261-6161 (谷山キャンパス)099-260-4151		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 原田学園		昭和34年10月20日		原田 賢幸		〒 891-0141 (住所) 鹿児島県鹿児島市谷山中央2丁目4118番 (電話) 099-268-3011		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
医療	医療専門課程	診療放射線技術学科		-	平成22(2010)年度	平成29(2017)年度		
学科の目的	医療業界の進化に合わせた柔軟な対応及び向上心がある人材の育成を目的とし、高い専門性をもつ講師陣に養成の一端を担って頂き、更に実習を受けて頂くことで、実践力やチーム医療を推進することができる人材を養成する。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格:診療放射線技師国家試験受験資格,放射線取扱主任者第1種,放射線取扱主任者第2種 中退率:2%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 3,545 単位時間 単位		2,080 単位時間 単位	310 単位時間 単位	915 単位時間 単位	195 単位時間 単位	45 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
320人	302人	0人		0%				
就職等の状況	■卒業生数(C)		58人					
	■就職希望者数(D)		46人					
	■就職者数(E)		46人					
	■地元就職者数(F)		27人					
	■就職率(E/D)		100%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		59%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		79%					
	■進学者数		3人					
	■その他							
	(令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 病院・クリニック・診療所・福祉施設								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.harada-gakuen.ac.jp/igisen/gakka/rt/">https://www.harada-gakuen.ac.jp/igisen/gakka/rt/</a>							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数		3,545 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		675 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間						
うち必修授業時数		3,545 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		675 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		675 単位時間						
(B:単位数による算定)								
総授業時数		単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位						
うち必修授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		9人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人					
	計		10人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		0人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

目まぐるしく変化・進展する医療・福祉情勢において、高度な実践能力と豊かな社会性を備えた人材が求められている。当校では、そのような人材の輩出を念頭に、「人を助けたい、人の役に立ちたい」という想いを持つ医療・福祉のプロフェッショナルを育成することを目的としている。  
そのため、臨床実習指導者や教育課程編成委員会での意見を交えるなどし、高い臨床実践能力を学ぶための多岐にわたった教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、専攻分野に係る企業関係者等からなる委員と当該学科の専任教員により組織され、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等と連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成に活かすことを目的としている。

教育課程編成委員会は、学内委員会の教育委員会(運営)と当該学科(実施)を中心に運営し、教育課程全般に関することをはじめ、当該学科に関する教育課程などを中心に委員との意見交換を行い、有用な意見について学校全体もしくは学科での検証を行ったうえで教育課程へ反映することとしている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年8月31日現在

名前	所属	任期	種別
野中 康博	公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会 理事	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	①
井ノ上 祐二	公益社団法人鹿児島共済会 南風病院 医療技術部放射線技術科 技師長 / 診療放射線技師	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
濱川 孝二	鹿児島医療技術専門学校 副校長(教育委員長)		—
有蘭 良一	鹿児島医療技術専門学校 診療放射線技術学科 学科長		—
東 幸浩	鹿児島医療技術専門学校 診療放射線技術学科 副学科長		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7-8月・2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月6日

第2回 令和5年2月11日

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

「実践臨床画像学の教育目標について ～診療参加型臨床実習に対応できる知識・技能・態度とは～」  
患者さんには、高齢者が多く、丁寧に分かりやすく検査の説明などおこなうように指導している。また、外国人の方も、対応する機会があるため日常英語なども必要と感ずるため、そのような講義はあるか？

本校のカリキュラムでは、1年次に英語Ⅰ・Ⅱ、2年次に医学英語を開講している。それらの講義のなかで、検査を受けるときの英語の説明などについても今後検討していきたい。

「実践臨床画像学の科目内容とその評価について」

実践臨床画像学Ⅰは、チーム医療・医療現場・患者への対応がキーワードになる。実習を受け入れる側としては、嚥下造影の際にリハビリスタッフや看護師、医師が携わる検査があるため見学をさせているが、学校側の対応はどうか。

チーム医療論では、嚥下造影を想定した映像を作成しVRゴーグルを使用して学ぶ講義も取り入れている。今後、このVRゴーグルを利用した教育を積極的に取り入れていきたい。

「実践臨床画像学の科目内容とその評価について」  
 当直帯は、専門でない医師が担当することが多い。CT検査の撮影中に医師が操作室に来て、診療放射線技師に対して、「これ、どうかなって」聞かれることもある。そのため、異常所見について勉強をしていないと答えられない。学校側の教育体制はどうなっているか。

臨床画像学の科目においても、代表的な異常所見などについては学んでいる。今後は緊急性の高い疾患、いわゆるSTAT画像については医師へ報告するなどの他職種との連携についても講義、実習に取り入れていきたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習指導者は臨床経験が5年以上の診療放射線技師とし、臨床実習指導者講習を受講した指導者が中心となって指導を行っている。医療施設の長・臨床実習指導者と連携を取りながら有意義な実習を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

臨床実習Ⅰ(135時間)、臨床実習Ⅱ(90時間)、臨床実習Ⅲ(225時間)を設けている。実習中に学生は臨床実習指導者に毎日実習レポートを提出している。内容は実習した内容の検査についての復習、翌日に行われる予定の検査についての予習である。臨床実習指導者はこのレポートに対してコメントを書き、学生の指導を行っている。教員は施設訪問時に、レポートの提出状況・成果の確認、要望や問題点のヒアリング等を臨床実習指導者に行い、連携している。また実習終了後にはレポートの内容と臨床実習指導者の評価を総合して学生の評価を行っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	一般撮影・CT検査・透視検査・血管造影など	鹿児島大学病院、鹿児島市立病院、今給黎総合病院、今村総合病院、南風病院 他40施設 計45施設
臨床実習Ⅱ	MRI検査・超音波検査・眼底検査など	鹿児島大学病院、鹿児島市立病院、今給黎総合病院、今村総合病院、南風病院 他31施設 計36施設
臨床実習Ⅲ	核医学検査・放射線治療	鹿児島大学病院、鹿児島市立病院、今給黎総合病院、今村総合病院、南風病院 他30施設 計35施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員研修規程に基づき、本校は、当該学校の教員に対し、日常の執務を通じて常に適切な研修を行わせるよう努めなければならない。また、研修の計画を立て、実施するに当たっては、研修の効果を高めるために、職員の自己啓発の意欲を發揮させるよう、配慮しなければならない。

なお、各学科の専門分野に関する研修については、年度初めに各学科にて検討し、研修計画を立て、実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	日本超音波医学会第49回関西地方会学術集会	連携企業等:	日本超音波医学会
期間:	令和4年10月7日(金)～8日(土)	対象:	専任教員1名
内容:	超音波装置の管理・安全性の講習を受講した。また、基礎分野のセッションに参加し、臨床とは異なる基礎系の研究発表を聞き、今後の講義・卒業研究に活かせる内容であった。		
研修名:	第50回日本磁気共鳴医学会大会	連携企業等:	日本磁気共鳴医学会
期間:	令和4年9月9日(金)～11(日)	対象:	専任教員1名
内容:	MRIは日進月歩というよりも遥かに早いスピードで技術革新していると言われており、本学会で得られた知識を学生へフィードバックできている。		
研修名:	第50回日本放射線技術学会秋季学術大会	連携企業等:	日本放射線技術学会
期間:	令和4年10月7日(金)～9(日)	対象:	専任教員2名
内容:	卒業研究班のMRIに関する研究発表を行った。研究内容は非常に好評で、質疑応答も活発であった。また、研究内容は座長推薦優秀研究賞を受賞しており、指導力の向上が成果として表れた学会であった。		

研修名:	第17回九州放射線医療技術学術大会	連携企業等:	日本診療放射線技師会・ 日本放射線技術学会
期間:	令和4年11月19日(土)~20(日)	対象:	専任教員2名
内容:	MRIに関する口述発表を行った。教育と平衡して研究発表を行うのはハードであったが、教育を行ううえで、MRIに関してより深く知識を積み重ねなければならない。MRIの定量値に関する研究を行い、より深く理解ができた。		
研修名:	第25回鹿児島MRI研究会	連携企業等:	鹿児島MRI研究会
期間:	令和5年2月22日(水)	対象:	専任教員1名
内容:	MRI初学者向けに講演を行った。本校卒業生も多く参加していたようで、わかりやすく伝えられたと思う。学校での講義でも、「わかりやすく」伝えることを意識したい。		
研修名:	第79回日本放射線技術学会総会学術大会	連携企業等:	日本放射線技術学会
期間:	令和4年4月14日(金)~16(日)	対象:	専任教員1名
内容:	診療放射線技術学科から2名の学生が演題登録にて採択され発表した。両演題共に人工知能に関する最先端の演題であったが、発表・質疑応答で大きな問題もなく終了できた。座長、会場からも様々な知見や技術に関する助言をいただいたので、今後の学生教育、卒業研究指導へ活かしていきたい		
研修名:	第23回日本ロービジョン学会学術総会	連携企業等:	日本ロービジョン学会
期間:	令和4年5月20日(金)~22(日)	対象:	専任教員1名
内容:	テーマ「人生100年時代のビジョンサポート」とし、ICT機器や人工知能などの視覚支援機器の技術革新は、人生100年時代のビジョンサポートに大きく寄与する。放射線検査においても、ビジョンサポートは必要な知識・技術であり、卒業研究や教育内容に取り入れていきたい。		
研修名:	鹿児島県診療放射線技師会令和4年度特別講演・春季学術大会	連携企業等:	鹿児島県診療放射線技師会
期間:	令和4年6月26日(日)	対象:	専任教員1名
内容:	フィナンシャルプランニング技能士による講演「人生100年時代にむけたライフプランについて」や、会員発表では、被ばく管理における看護記録と連携したシステム構築、診療放射線の安全利用のための研修についての取り組みなどがあった。学んだ内容については、今後の教育に活かしていきたい。		
研修名:	環境省ぐるぐるプロジェクトラジエーションカレッジセミナー講師育成研修会	連携企業等:	環境省ぐるぐるプロジェクト
期間:	令和4年10月28日(金)	対象:	専任教員1名
内容:	環境省ぐるぐるプロジェクト「ラジエーションカレッジ」の講師を育成する研修会であり、日本診療放射線技師会の放射線被ばく相談員分科会と連携して放射線に関する差別・偏見について学ぶ研修会であった。学んだ内容は、講義等で学生へ還元していく。		
研修名:	令和4年度鹿児島県放射線管理士部会研修会	連携企業等:	鹿児島県放射線管理士部会
期間:	令和5年1月29日(日)	対象:	専任教員1名
内容:	環境省・鹿児島大学地震火山地域防災センターと共催の保健師・診療放射線技師を対象とする放射線に関する研修会。これまでの事例をもとに各職種でのアプローチ、リスクコミュニケーションの方法について演習をおこなった。学んだ内容は、講義等で学生へ還元していく。		
研修名:	第62回日本核医学会学術総会 第42回日本核医学技術学会総会学術大会	連携企業等:	日本核医学会 日本核医学技術学会
期間:	令和4年9月9日(金)~11(日)	対象:	専任教員1名
内容:	核医学に関する最新の技術や動向を知り、それらを講義を通し学生へフィードバックすることで、学生の知識向上に役立っている。		
研修名:	日本CT技術学会第10回学術大会	連携企業等:	日本CT技術学会
期間:	令和4年7月9日(土)	対象:	専任教員1名
内容:	CTの最新技術であるフォトンカウンティングCTについて最新の知見を深めた。また、研究に関するセッションもあり、卒業研究に対する取り組み方についても学生へフィードバックできる内容を得ることが出来た。		
研修名:	日本先端科学技術教育人材研究開発機構 第13回放射線生物学セミナー	連携企業等:	日本先端科学技術教育 人材研究開発機構
期間:	令和5年2月18日(土)	対象:	専任教員1名
内容:	放射線治療の科学的基盤となる放射線生物学を共通の対象領域としながら、その基礎から応用まで幅広く解説された。放射線生物学の本質的な理解と社会が期待するこれからのがん治療について、知識の発展と学生への還元をしていきたい。		

②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	第16回日本診療放射線学教育学会学術大会	連携企業等: 日本診療放射線学教育学会
期間:	令和4年8月27日(土)	対象: 専任教員1名
内容	テーマ「個を伸ばす教育」とし、診療放射線学における教育技法、評価、制度など情報交換ならびに関連団体(企業、職業団体)との提携を図ることにより、放射線教育の発展につなげていく。今回、学んだ教育技法、評価については今後の講義等に活かしていきたい。	
研修名:	診療放射線技師業務拡大に伴う告示研修におけるファシリテータ養成講習会	連携企業等: 日本診療放射線技師会
期間:	令和4年10月3日(月)～(e-ラーニング)	対象: 専任教員4名
内容	診療放射線技師の業務拡大に伴う、カリキュラムの改正がおこなわれた。新たな業務を遂行するためには、告示研修を修了することが義務付けられている。告示研修で、ファシリテータを担当する者は、ファシリテータ養成講習会を受講する必要がある。学生に対する告示研修を行うために4名の教員がファシリテータ講習を受講した。	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	第18回九州放射線医療技術学術大会	連携企業等: 日本診療放射線技師会・日本放射線技術学会
期間:	令和5年10月3日(金)～4日(土)	対象: 専任教員2名
内容	「自然言語処理を用いた診療放射線技師国家試験と第1種放射線取扱主任者試験の関連」という演題を卒業研究の学生が発表した。今後の学生の研究活動に役立てることが期待できる。	
研修名:	日本CT技術学会第11回学術大会	連携企業等: 日本CT技術学会
期間:	令和5年7月7日(金)～8日(土)	対象: 専任教員1名
内容	CTの最新技術であるフォトンカウンティングCTについてデュアルエナジーからどのようにして最新の撮影法へ移行するのか最新の知見を深める。また、研究に関するセッション、ポスター発表もあり、卒業研究に対する取り組み方についても学生へフィードバックできる内容を得ることができる。	
研修名:	第51回日本磁気共鳴医学会大会	連携企業等: 日本磁気共鳴医学会
期間:	令和5年9月22日(金)～24日(日)	対象: 専任教員1名
内容	同学会にて口述発表を行う。また、MRIに関する最新話題を情報収集し、学生教育に活用したい。	
研修名:	第51回日本放射線技術学会秋季学術大会	連携企業等: 日本放射線技術学会
期間:	令和5年10月27日(金)～29日(日)	対象: 専任教員2名
内容	損失関数からのアプローチによるノイズ除去に関する研究とスタイル変換についての研究発表予定。卒業研究班のMRIに関する研究発表を行う。昨年度よりも研究内容、スライド構成も質が向上していると自負している。指導力をさらに向上したい。	
研修名:	第63回日本核医学会学術総会・第43回日本核医学技術学会総会学術大会	連携企業等: 日本核医学技術学会・日本核医学会
期間:	令和5年11月16日(木)～18日(土)	対象: 専任教員1名
内容	核医学に関する最新の技術や動向を知り、それらを講義を通し学生へフィードバックすることで、学生の知識向上に役立てる。	
研修名:	日本超音波医学会第96回学術集会	連携企業等: 日本超音波医学会
期間:	令和5年5月27日(土)～29日(月)	対象: 専任教員1名
内容	「診療画像検査学(US)および実習」にて超音波検査学の学習を行っている。最新機器・技術を習得し、学生へフィードバックする良い機会である。また、指導力の向上につながっている。	
研修名:	第39回日本診療放射線技師学術大会	連携企業等: 日本診療放射線技師会
期間:	令和5年9月29日(金)～10月1日(日)	対象: 専任教員2名
内容	同学会にて口述発表を行う。また、本校3年生の大学院進学志望者が参加する。学会の雰囲気や聴講の仕方などを伝え、情報収集の場にしてあげたい。	
研修名:	宮崎MRI研究会	連携企業等: 宮崎MRI研究会
期間:	令和5年12月2日(土)	対象: 専任教員1名
内容	低磁場MRI装置に関する話題と、今まで行ってきた研究、研究内容の論文アクセプトまでの道のりに関する講演を行う。	

研修名:	令和5年度第1回甲状腺簡易測定研修	連携企業等:	鹿児島県・長崎大学
期間:	令和5年5月20日(土)	対象:	専任教員1名
内容	原子力災害拠点病院や原子力災害医療協力機関が中心となり、原子力災害時の甲状腺簡易測定マニュアルを用いて測定手順を確認する。原子力災害時における診療放射線技師の役割を把握することは重要であり、学生教育に活用する。		
研修名:	令和5年度第19回フレッシューズセミナー	連携企業等:	鹿児島県診療放射線技師会
期間:	令和5年6月11日(日)	対象:	専任教員1名
内容	各施設の新人、若手の方、新人教育の参考とされたい指導的立場の方などが参加するセミナーに、講師として参加。また、本学科の学生も参加する。学生にとっても、挨拶の仕方や標準予防策から感染経路別予防策などを学ぶことができる機会となる。		
研修名:	第6回九州GECTユーザー会	連携企業等:	GEヘルスケアシステムズ
期間:	令和5年7月28日(金)	対象:	専任教員1名
内容	当校で採用しているCT機器の九州各県のユーザーが参加する研修会で、現在行われている撮影技術や最新の情報に関する報告。撮影方法に関する最新の知見を得ることで、学生教育へ還元する。		
研修名:	第3回 GE HealthCare CT CONSORTIUM	連携企業等:	GEヘルスケアシステムズ
期間:	令和5年6月17日(土)	対象:	専任教員1名
内容	当校で採用しているCT機器の全国のユーザーが参加する研修会で、現在行われている撮影技術や最新の情報に関する報告。撮影方法に関する最新の知見を得ることで、学生教育へ還元する。		
研修名:	日本放射化学会 第67回討論会(2023)	連携企業等:	日本放射化学会
期間:	令和5年9月21日(木)~23日(土)	対象:	専任教員1名
内容	幅広い放射学分野の中の最新の動向を把握しつつ、診療放射線技師に関わる知見を学び、学生へ還元する。		
<b>②指導力の修得・向上のための研修等</b>			
研修名:	第17回日本診療放射線学教育学会学術集会	連携企業等:	日本診療放射線学教育学会
期間:	令和5年8月26日(土)	対象:	専任教員2名
内容	診療放射線技師教育の現状についてをテーマに、養成機関、医療機関、関連団体(公益社団法人日本診療放射線技師会)が参加し、情報交換をおこなう。今後の診療放射線技師に求められる役割と、そのための教育内容について学ぶことにより、学生教育へ還元していく。		
研修名:	診療放射線技師業務拡大に伴う告示研修会	連携企業等:	日本診療放射線技師会
期間:	令和5年7月9日(日)・9月17日(日)	対象:	専任教員2名
内容	診療放射線技師の業務範囲の見直しが行われ、厚生労働大臣が指定する研修の受講が義務付けられた。主催者である公益社団法人日本診療放射線技師会からの委託を受け、鹿児島県診療放射線技師会が告示研修会(実技)を開催する。カリキュラムに新設される科目の内容であり、実技の方法など学生教育に活用する。		
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1)学校関係者評価の基本方針			
<p>自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の結果の公表(公表時期:9月頃予定)により、適切に説明責任を果たすとともに、教職員は、結果を活用し、教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に継続的に努める。</p> <p>具体的には、学校評価を実施する上での役割を果たす学内委員会の評価委員会にて、学校関係者評価結果をまとめ、学内の決議機関である運営会議にて報告を行い、本校ホームページに公表(公表時期:8月頃予定)するとともに、評価結果を活用するため、評価項目において関連する学内委員会等(教育委員会、学生委員会、入試委員会、財務委員会等)にて、今後の改善方策を検討し、具体的取組みの改善を図る。</p>			
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目		学校が設定する評価項目	
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か</li> <li>・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか</li> <li>・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか</li> <li>・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けられているか</li> </ul>		

(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか</li> <li>・人事、給与に関する規程等は整備されているか</li> <li>・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立った工夫・開発などが実施されているか</li> <li>・関連分野の企業等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>・成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保しているか</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善活用がされているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</li> <li>・高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>・自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した</li> <li>・社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>・地域に対する公開講座・出前講座の受託等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> <li>・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ①教育活動において、チームアプローチの重要性や各学科間の連携強化の必要性についてのご指摘をいただき、令和4年度に以下の取り組みを行った。  
 文部科学省から「先端技術利活用実証研究」の委託を受け、先端技術利活用実証研究プロジェクトチーム(VRIPE)にて、聖マリアンナ医科大学との共同での多職種連携VR教材の制作、令和3年度制作の多職種連携VR教材(VF検査)を使用した実証講座の実施、各学科独自のVR教材制作を行った。
- ②学習成果において、国家試験合格率に対してのご指摘をいただき、令和4年度に以下の取り組みを行った。  
 学校長をトップマネジメントとした「国家試験対策小委員会」を設置し、全学科より委員を配置し、ソフト面・ハード面の問題点の抽出を行い、改善を図っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年8月31日現在

名前	所属	任期	種別
八田 冷子	公益社団法人 鹿児島県看護協会 会長	令和4年6月1日～ 令和6年3月31日(1年10ヶ月)	専門分野における企業等委員
野中 康博	公益社団法人 鹿児島県診療放射線技師会 理事	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	専門分野における企業等委員
川崎 友義	一般社団法人 鹿児島県介護福祉士会 理事	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	専門分野における企業等委員
吉満 孝二	一般社団法人 鹿児島県作業療法士協会 会長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	専門分野における企業等委員
生駒 成亨	公益社団法人 鹿児島県理学療法士協会 副会長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	専門分野における企業等委員
小倉 道広	一般社団法人 鹿児島県言語聴覚士会 理事	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	専門分野における企業等委員
井ノ上 祐二	公益社団法人鹿児島県共済会 南風病院 医療技術部放射線技術科 技師長 / 診療放射線技師	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	専門分野における企業等委員
高谷 哲也	国立大学法人 鹿児島大学 教育学部 准教授	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	学術機関等の有識者
柿野 聡子	公益社団法人 鹿児島市医師会病院 / 看護師	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	卒業生
湯脇 稔	株式会社カクイックスウィング 営業本部 教育担当スーパーバイザー / 作業療法士	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	卒業生
益山 康秀	メディカルリテラシーラボ 代表 / 理学療法士	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	卒業生
當房 裕幸	社会福祉法人向陽会 地域医療・福祉ステーション ひまわり病院 リハ課係長 / 言語聴覚士	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	卒業生
日高 清一郎	社会福祉法人 桜岳会法人 経営企画部長 / 介護福祉士	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	卒業生
多久島 徹	鹿児島県立錦江湾高等学校 教頭	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	高等学校等の校長等
鬼丸 克彦	平川まちづくり協議会 会長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	地域住民
峰元 朋子	鹿児島医療技術専門学校 保護者	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )  
 URL: <https://www.harada-gakuen.ac.jp/igisen/school/johokoukai/>  
 公表時期: 令和5年9月25日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者との連携・協力体制を確保するため、文科省「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」において示された情報提供項目に基づき、本校ホームページを用いて、教育理念をはじめとする学校運営全般の必要な情報を提供する。  
 また、高い臨床実践能力を発揮できる人材を輩出するため、教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会、臨床実習指導者会議など企業等との関わりの場にて、教育活動及びその他学校運営に関する情報の提供を行うことを積極的に推進する。



(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校の概要 (校長名、所在地・連絡先、沿革、特色、学則) ・目標・計画 (教育理念、3つのポリシー、行動計画)
(2)各学科等の教育	・学科紹介 (定員数等、学科紹介/取得資格等、カリキュラム、シラバス)
(3)教職員	・組織・教職員 (組織図・教職員数)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職・進学 (卒業後の進路、大学院への進学)
(5)様々な教育活動・教育環境	・様々な教育活動・教育環境 (学校行事、クラブ・サークル活動、施設案内)
(6)学生の生活支援	・学生の生活支援 (学生寮紹介)
(7)学生納付金・修学支援	・入試、学費等、学修支援 (入試募集要項、学費等/学習支援等)
(8)学校の財務	・学校の財務 (財務諸表(貸借対照表、収支決算書、財産目録、事業報告書、監査報告書)等)
(9)学校評価	・学校評価 (自己評価結果報告書、学校関係者評価結果報告書)
(10)国際連携の状況	—
(11)その他	・その他 (教職員による地域・社会貢献活動)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.harada-gakuen.ac.jp/igisen/school/johokoukai/>

公表時期: 令和5年9月25日

授業科目等の概要

(医療専門課程 診療放射線技術学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		数学Ⅰ	三角関数・指数と対数・微分法について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
2	○		数学Ⅱ	三角関数の微分、指数・対数の微分・不定積分について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
3	○		統計学	データの整理・確立・統計的推定・検定について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1	○			○			○	
4	○		物理学Ⅰ	仕事とエネルギー・波・音・光について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
5	○		物理学Ⅱ	熱・電荷と電場・磁場・原子核の構造と放射線について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
6	○		化学	原子・分子・化学反応・酸と塩基について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
7	○		生物学	細胞・遺伝子・遺伝の法則・人体解剖について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
8	○		物理化学実験	イオンの定性分析・放電実験について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1			○	○			○	
9	○		倫理学	哲学と倫理・道徳・法律・習俗・愛・エロスについて学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
10	○		社会学	現代世界の現状・生命と平和・高齢化問題について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
11	○		英語Ⅰ	Listening・Readingの基礎について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
12	○		英語Ⅱ	主語と動詞・現在形と過去形・接続詞について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
13	○		基礎情報学	CPUとメモリ・ディスプレイ・ネットワークについて学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
14	○		基礎情報学実習	ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトについて学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1			○	○		○		
15	○		保健	生活習慣病・ストレス・喫煙・飲酒・薬物乱用について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	15	1	○			○			○	

(医療専門課程 診療放射線技術学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
16	○			体育	バレーボール・バドミントン・卓球などを体験を通し、健康の維持・増進・体力向上の方法を学ぶ。	1通	45	1			○	○			○	
17	○			キャリアデザイン入門	目標を立て、その目標を達成するためには何が必要かを考える。また、過去を振り返り自身を理解する事により、未来の目標に繋げていく。	1通	15	1	○		△	○			○	
18	○			キャリア形成論Ⅰ	医療機関の役割や分野を学ぶ。また、コミュニケーションの必要性を知り、スキルを高めてもらう。	3通	15	1	○		△	○			○	
19	○			キャリア形成論Ⅱ	就職活動で採用内定を勝ち取る為に、必要な知識や技術を学ぶとともに、学生から社会人へと気持ちを移行してもらう。	4通	15	1	○		△	○			○	
20	○			解剖学Ⅰ	器官・組織・骨格系・筋系・脈管系・消化器系について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
21	○			解剖学Ⅱ	呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系などについて学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
22	○			解剖学Ⅲ	骨格系・関節学・脈管系・消化器系・呼吸器系について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1	○			○			○	
23	○			医学概論	医療保険制度・近代医学の歴史・患者の権利について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	20	1	○			○			○	
24	○			生理学Ⅰ	心臓・血管・呼吸・神経細胞・脳の機能について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
25	○			生理学Ⅱ	ホルモン・筋・消化器系・腎臓・生殖器の機能について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
26	○			生化学	糖質・脂質・たんぱく質・核酸代謝などについて学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
27	○			病理学	代謝異常・循環障害・炎症・免疫・感染症などについて学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1	○			○			○	
28	○			公衆衛生学	感染症とその予防・生活習慣病・食品衛生について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
29	○			臨床薬理学	薬物動態・作用と有害反応・エビデンスに基づく薬物治療・アナフィラキシーについて学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	15	1	○			○			○	
30	○			医療倫理学	出生前診断・脳死・臓器移植・尊厳死などについて学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	30	1	○			○			○	
31	○			臨床心理学	気分障害・不安障害・解離性障害について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	15	1	○			○			○	

(医療専門課程 診療放射線技術学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
32	○			医学英語	解剖・病理・放射線検査に関する英語及び英語論文の読解について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1	○			○			○	
33	○			医療経済学	医療費の仕組み・医療費適正化・診療報酬制度について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	30	1	○			○			○	
34	○			基礎医学演習	人体の解剖・代謝・病因・疾病・疾患等について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	4通	30	1		○		○		○	○	
35	○			医用工学Ⅰ	電気の基礎について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
36	○			医用工学Ⅱ	抵抗・コンデンサ・電流の関係、半導体・増幅回路および論理回路について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1	○			○			○	
37	○			医用工学実験	基本的な計器の使用法や計測法について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1			○	○		○	○	
38	○			画像数学	AD変換・フーリエ級数・デルタ関数・周波数分析について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1	○			○			○	
39	○			放射線概論Ⅰ	放射線について概要を理解し、この学問に興味を持つことと、診療放射線技師の業務について概要を学び興味を持つことを目標とする。	1通	30	1	○			○		○	○	
40	○			放射線概論Ⅱ	放射線の歴史・種類・計測・作用について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	1	○			○			○	
41	○			放射線物理学Ⅰ	放射線の単位・用語・スペクトル・壊変について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1	○			○			○	
42	○			放射線物理学Ⅱ	放射線の相互作用・加速器・核反応・核分裂について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1	○			○			○	
43	○			放射化学Ⅰ	放射能・同位体・半減期・放射平衡について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1	○			○			○	
44	○			放射化学Ⅱ	人工放射線核種・核反応・放射分析について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	30	1	○			○			○	
45	○			放射線生物学Ⅰ	放射線生物作用・LET・放射線感受性について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1	○			○			○	
46	○			放射線生物学Ⅱ	放射線障害・防護について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	30	1	○			○			○	
47	○			放射線計測学Ⅰ	放射線計測器・線量測定・エネルギー測定について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1	○			○			○	

(医療専門課程 診療放射線技術学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
48	○			放射線計測学Ⅱ	放射線計測器・線量測定・エネルギー測定について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1	○			○		○		
49	○			放射線計測学実験	バックグラウンドの測定・各測定器による測定について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	45	1			○	○		○		
50	○			放射線科学演習	専門基礎分野の演習について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	4通	100	5		○		○		○		
51	○			臨床画像学Ⅰ	頭部・体幹部・四肢・血管の画像解剖について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1	○			○			○	
52	○			画像解剖学Ⅱ	頭部・体幹部・四肢・血管の疾患画像解剖について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	30	1	○			○		○		
53	○			X線撮影技術学総論	X線撮影・CT検査・造影検査・乳房撮影などについて学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	2	○			○		○		
54	○			X線撮影技術学Ⅰ	X線写真の基礎知識・ポジショニング・各部位の撮影法について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	2	○			○		○		
55	○			X線撮影技術学Ⅱ	血管造影・消化管・胆道・膵臓・泌尿器造影について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	2	○			○			○	
56	○			X線撮影技術学Ⅲ	前処置・単純撮影・造影撮影・各部位の撮影について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	2	○			○		○		
57	○			X線撮影技術学実習	頭部・体幹部・四肢・乳房・消化管撮影実習について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	60	2			○	○		○		
58	○			診療画像検査学Ⅰ	撮像法の基礎・各部位の撮像・造影検査について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	2	○			○		○		
59	○			診療画像検査学Ⅱ	超音波の基礎・各部位の検査方法・画像所見について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	30	2	○			○		○		
60	○			診療画像検査学実習Ⅰ	SN比・空間分解能の測定・各部位の撮像実習について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1			○	○		○		
61	○			診療画像検査学実習Ⅱ	肝臓・胆道・膵臓・腎臓・表在臓器の描出について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	30	1			○	○		○		
62	○			診療画像機器学総論	X線発生装置・X線TV・CR・MRI・US装置の構造について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1通	30	2	○			○		○		
63	○			診療画像X線機器学Ⅰ	X線装置の構成・高電圧発生装置・X線管の構造について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	2	○			○		○		

(医療専門課程 診療放射線技術学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
64	○		診療画像X線機器学Ⅱ	関連機器・特殊装置・II・モニタの構造について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	2	○			○		○		
65	○		X線CT機器学	X線CT装置の原理・CT値・アーチファクトについて学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	2	○			○		○		
66	○		磁気共鳴画像機器学	MRI装置の原理・性能評価・アーチファクトについて学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	2	○			○		○		
67	○		診療画像機器学実験Ⅰ	実効焦点の撮影・グリッドの特性・FTの特性について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2通	30	1			○	○		○		
68	○		診療画像機器学実験Ⅱ	CTの空間分解能・スライス厚・ヘリカルピッチの測定について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	30	1			○	○		○		
69	○		診療画像技術学演習	X線撮影・CT・MRI・US検査の演習について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	4通	100	4		○		○		○		
70	○		核医学検査技術学Ⅰ	RIの性質・SPECT・PETについて学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	30	2	○			○		○		
71	○		核医学検査技術学Ⅱ	各部位のRI検査について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	30	2	○			○		○		
72	○		核医学検査機器学	放射線検出器の特徴・コリメータ・サイクロトロンについて学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	20	1	○			○		○		
73	○		放射線医薬品学	RI・造影剤の薬理作用や副作用について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	15	1	○			○		○		
74	○		核医学検査技術学演習	核医学機器・検査の演習について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	4通	20	1		○		○		○		
75	○		放射線腫瘍学	放射線治療概論・歴史・各臓器癌治療について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	30	2	○			○		○	○	
76	○		放射線治療技術学	治療計画・各種照射法・線量計算法について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	30	2	○			○		○		
77	○		放射線治療機器学	リニアック・サイクロトロン・密封小線源装置について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	30	2	○			○		○		
78	○		高エネルギー計測学	用語・高エネルギー光子の線量測定について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	30	2	○			○		○		
79	○		放射線治療技術学実験	放射線治療装置の取り扱い・性能点検について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	30	1			○	○		○		

(医療専門課程 診療放射線技術学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
80	○		放射線治療技術学演習	放射線治療に関する演習について学び、これら を理解・修得することを目的とする。	4 通	20	1		○		○	○			
81	○		医療画像情報学	医用画像の基礎・画像評価・医療情報について 学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2 通	30	2	○			○	○			
82	○		医療画像情報学実習	ソフトの使用法・サンプリング・量子化について 学び、これらを理解・修得することを目的とする。	2 通	60	2			○	○	○			
83	○		医療画像工学Ⅰ	感光材料・写真処理・デジタル医用画像について 学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1 通	15	1	○			○	○			
84	○		医療画像工学Ⅱ	画像形成・フィルムの解像特性・ノイズ特性について 学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1 通	15	1	○			○	○			
85	○		医療情報学Ⅰ	コンピュータの基礎・ネットワーク・プログラミング・ セキュリティについて学び、これらを理解・修得 することを目的とする。	2 通	15	1	○			○	○			
86		○	医療情報学Ⅱ	HIS・RIS・データ分析・評価・倫理例について 学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3 通	30	1	○			○	○			
87	○		医療画像情報学演習	医用画像情報に関する演習について学び、これ らを理解・修得することを目的とする。	4 通	20	1		○		○	○			
88	○		放射線関係法規	診療放射線技師法・電離放射線障害防止法につ いて学び、これらを理解・修得することを目的 とする。	4 通	30	2	○			○	○			
89	○		放射線安全管理学	免許登録と技師籍・照射録・守秘義務について 学び、これらを理解・修得することを目的とする。	1 通	30	2	○			○	○			
90	○		放射線管理論Ⅰ	原子核の壊変・放射能と単位・人体への影響につ いて学び、これらを理解・修得することを目的 とする。	2 通	30	1	○			○	○			
91		○	放射線管理論Ⅱ	放射線物理学・放射化学・関係法規例について 学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3 通	30	1	○			○	○			
92	○		放射線安全管理学演習	放射線管理・関係法規に関する演習について学 び、これらを理解・修得することを目的とする。	4 通	20	1		○		○	○			
93	○		医療安全管理学Ⅰ	医療安全、ヒューマンエラー、インシデント・アク シデント、感染予防、ノンテクニカルスキルにつ いて学び、これらを理解・修得することを目的と する。	3 通	15	1	○		△	○	○	○		
94	○		医療安全管理学Ⅱ	モダリティ別の医療安全、造影剤の薬理作用と 副反応、インシデント・アクシデント事例につ いて学び、これらを理解・修得することを目的と する。	3 通	15	1	○		△	○	○	○		
95	○		チーム医療論	医療の質、チーム医療の要素・成員たる職種・ チームの効果、教育方法について学び、これら を理解・修得することを目的とする。	3 通	30	1	○		△	○	○	○		

(医療専門課程 診療放射線技術学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
96	○			実践臨床画像学Ⅰ	医療現場における放射線機器等の取扱い、患者への対応及び検査に関わる説明、チーム医療及や安全管理について実践的に学習する。	3通	30	1	○		△	○		○	○	
97	○			実践臨床画像学Ⅱ	静脈路の確保、抜針及び止血の手技などを実践的に学習し、病院等で臨床実習を行うのにふさわしい技能や医療者としての態度を身につける。	3通	30	1	○		△	○		○	○	
98	○			臨床実習Ⅰ	主にX線撮影技術学の臨床実習を通し、X線撮影技術例について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	3通	135	3			○		○		○	○
99	○			臨床実習Ⅱ	主に診療画像検査学の臨床実習を通し、診療画像検査例について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	4通	135	3			○		○		○	○
100	○			臨床実習Ⅲ	主に放射線治療技術学・核医学検査技術学の臨床実習を通し、放射線治療技術・核医学検査技術例について学び、これらを理解・修得することを目的とする。	4通	270	6			○		○		○	○
101	○			診療放射線学卒業研究Ⅰ	担当教官指導の下、文献の検索方法やデータ収集、統計処理、発表までの一連の流れについて学び、研究に対する理解を深める。	3通	45	1			○	○	○	○	○	○
102	○			診療放射線学卒業研究Ⅱ	診療放射線技術を高めるために、各自の興味を持った分野を選択し、担当教員と共に問題点を洗い出し、解決法を探るために研究を行う。	4通	90	2			○	○	○	○	○	○
合計						102 科目			3545単位時間 (140単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 開設している全ての必修科目を履修・修得し、学納金が未納でないこと。		1学年の学期区分	2期
履修方法： 学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。		1学期の授業期間	20週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。